

自己点検・評価の結果等について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検評価・認証評価審査対策委員会	
(責任者名)	澁谷 泰秀
(役職名)	学長

② 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>【意見・結果】 自己点検評価・認証評価審査対策委員会のPDCA管理部会(ワーキンググループ)において、教務委員会など関連委員会よりプログラムの履修・取得状況データを吸い上げ、その内容等について確認や分析を行い、これらの内容等を活用しながら議論を行うことで、履修者の学修状況や修得状況などを把握し、関連委員会へ確認・分析内容をフィードバックし、関連プログラムの内容や支援体制について不断の見直しを行うような取組体制を取っている。これらの令和4年度の内容等については教務委員会にて確認等を行った。</p> <p>【改善に向けた取組等】 履修者の学修状況や修得状況など、さらに詳細に分析し、学生目線での関連プログラムの内容や支援体制について不断の見直しを引き続き行っていきたい。</p>
学修成果	<p>【意見・結果】 教務委員会の関連組織である学修支援センターを中心として実施している「学修状況・満足度調査」の「学修到達度調査」についての項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を教務委員会および自己点検評価・認証評価審査対策委員会などと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。これらの令和4年度の内容等については教務委員会にて確認等を行った。</p> <p>【改善に向けた取組等】 学修支援センターで実施している調査項目の見直しなどについても検討し、本プログラムの具体的な学修成果に関する項目の選定や学生がより興味関心を持って回答しやすいような仕組みについても引き続き検討していく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>【意見・結果】 本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、教務委員会において学生の理解度について確認などを行っている。</p> <p>【改善に向けた取組等】 教務委員会および関係教職員との連携をさらに強化し、学生の理解度がより明確に把握できるようアンケート項目の確認や見直しについても引き続き検討していく。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>【意見・結果】 履修者に対する授業アンケートにおいて、後輩学生や他の学生への推奨についての内容等について情報共有を行っている。また、履修者の授業アンケート内の自由意見など受講の感想等の意見について対象科目の教員が確認し、授業改善方を策定し、全学部でフィードバックを行い、その内容などを図書館で学生が閲覧できる仕組みなども活用することで、後輩学生や他の学生への講義受講を推奨している。</p> <p>【改善に向けた取組等】 学生の意見を踏まえ、後輩学生や他の履修していない学生へより興味・関心を持って本プログラムの受講につなげるよう工夫をしていく。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>【意見・結果】 本教育プログラムを構成する科目「情報社会と情報倫理」については、選択科目となっているため、教務委員会にて履修の状況等について定期的に確認し、全学的な履修者数・履修率の向上に向け、各教職員の専門的な視点なども取り入れながら見直しなどを検討し、学生の履修を推進している。</p> <p>【改善に向けた取組等】 履修率の向上に向け、選択科目の必修化の検討や履修に結びつくような仕掛けについて検討していく。</p>
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>【意見・結果】 卒業生アンケートを卒業時に実施し、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また学生の内定先企業や自治体等に対して企業調査を定期的に実施し、本プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みなどを設けている。</p> <p>【改善に向けた取組等】 卒業生アンケートの実施時期の検討、内定先企業へのアンケート項目についても確認や見直し等を行い、卒業生や企業等の評価も踏まえたプログラムの内容等の見直しをしていく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>【意見・結果】 本学での毎年の取り組み等についてまとめた冊子(青森大学の窓・青森大学ニュース)を外部の利害関係者へ配布や公表をする際に、アンケートを実施し、教育プログラムの講義内容等についても意見を収集するとともに、その内容について自己点検評価・認証評価審査対策委員会にて確認し、教務委員会などへフィードバックを行いながらプログラムの改善に活用している。</p> <p>【改善に向けた取組等】 アンケートだけでなく、直接産業界の皆様から対面でのヒアリング等、本プログラムについてご意見を聞く機会を持つことなどについても検討し、より生の声についても吸い上げる仕組みなども取り入れていく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>【意見・結果】 モデルカリキュラムリテラシーレベルに準じた内容を展開し、地域課題やトレンドなど地域社会での事例などを踏まえ、AIやデータ等がどのように活用されているかを中心に、学生の興味・関心が湧く講義内容となるよう工夫している。取り上げる事例については、授業(学生)アンケートの内容等を活用しながら実施している。</p> <p>【改善に向けた取組等】 最新のトレンドや地域課題等をキャッチアップしていくためにも、本学のFD・SD活動などを通じて教職員の教育力の向上に努め、教育する立場の者から学ぶ楽しさを深め、学生に伝えていく工夫をしていく。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>【意見・結果】 自己点検評価・認証評価審査対策委員会のPDCA管理部会(ワーキンググループ)において、教務委員会や関連委員会などから吸い上げた授業アンケートの内容や企業アンケートの内容、外部の利害関係者などからいただいたご意見などを参考に、学生目線に立った「分かりやすさ」の観点から、本学学生に寄り添った講義の内容・実施方法の見直しについて検討し、関連委員会にてフィードバックしながらわかりやすい授業内容を構築している。</p> <p>【改善に向けた取組等】 分かりやすさについても本学のFD・SD活動などを通じて教職員の教育力の向上を推進していく。</p>